



ロン D. バートン
2013-14年度国際ロータリー会長



高砂

No.1 1

Takasago Rotary Club

週報

クラブ会長方針

【目 標】

- ・親睦を深め会員ご家族とのお付き合い
- ・ロータリークラブを今一度考えなおし、各委員会活動への理解を得る
- ・ロータリークラブの地域へのアピール

例 会 記 録 (2013. 9. 20 (金)) 通算2,958回

◆開 会

◆唱 歌 ロータリーソング (我等の生業)

◆「四つのテスト」唱和

◆プログラム予定

9月27日 (金)	10月4日 (金)	10月11日 (金)	10月18日 (金)
卓話 「今時の子供たちを見て 思うこと」 青年の家所長 足立重之様	卓話 米山記念奨学会について 大村泰司会員	休 会 (定款第6条第1節(C)による)	卓話 「職業奉仕月間に因んで」 中尾康三会員

◆来年度ガバナー補佐 委嘱状授与式

山本 広志様



◆出席報告

本日	9月20日	会員数48名	出席者31名	出席率77.5%
前々回	9月6日	会員数48名	修正出席者48名	出席率100.00%

◆MAKE-UP

後藤 純次会員	e - CLUB	9月 2日 (9月27日)
後藤 純次会員	e - CLUB	9月 2日 (9月20日)
中木村 明会員	e - CLUB	9月13日 (9月13日)
堤 哲雄会員	e - CLUB	9月20日 (9月20日)
堀 直樹会員	e - CLUB	9月20日 (9月20日)
守光 隆会員	e - CLUB	9月13日 (9月13日)
小黑 清人会員	e - CLUB	9月18日 (9月20日)
井本 雅也会員	e - CLUB	9月20日 (9月20日)
丸山 恵右会員	e - CLUB	9月13日 (9月20日)

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

アートサロン内垣様……「例会の貴重なお時間をたまり有難く厚く御礼申し上げます。」
と心付けを頂いております。

片嶋 純雄会長……明日、娘が結婚いたします。又、昨日は有志の会ありがとうございました。

高木 史郎幹事……親睦活動委員会の皆様、有志の会御苦勞さまでした。

伊藤長次郎会員……スピーチをさせていただきます。宜しくお願いします。

新井 哲三会員……前回、よう曲CDをお買い上げ御協力頂き有難うございました。

濱崎日出夫会員……出席100%の祝を頂きありがとうございます。

濱崎日出夫会員……誕生日の祝を頂きありがとうございます。

福島 弥一会員……誕生日の祝を頂きありがとうございます。

◆幹事報告（2,958回）

○ガバナー事務所

ロータリーのデザイン「ロータリーを生き生きと表現しよう」の資料が届いています。

○米山記念奨学会より

ハイライトよねやま162号が発行されています。

米山月間用資料が発行されます。（9月20日）

○the rotarianの冊子が届いています。

○ロータリーの友事務所

広報誌ROTARY（ロータリー世界と日本・あなたも新しい風に）の申込書が届いています。

○東播磨地域ビジョン委員会より「東播磨きらっとVision」第3号が届いています。

※例会変更

高砂青松RC 10月9日(水) → 定款により休会

姫路南RC 10月14日(月) → 休会

加古川中央RC 10月10日(木) → 3クラブ合同例会

場所：加古川プラザホテル 午後6時～

1月3日(金) を定款による休会を祝日による休会とします。

5月23日(金) を定款第6条第1節(C)による休会に変更します。

◆会長の時間

お彼岸の話ですが、お彼岸とは、「彼岸」というのはサンスクリット語からきたものだそうです。春分・秋分を中日として、前後3日間を合せて7日間計1年で14日間です。この期間に行う仏事を彼岸会と呼ぶそうですが、サンスクリット Paramitaの意識で param（彼岸に）+ ita（到った）で彼岸という場所に到ったと意味するようです。煩惱と迷いを超えるべき川に例えて悟りにいたる事だそうです。「六波羅密」に関しては諸説あるようですが、「波羅密」（パーラミタ）の意識の「至彼岸」に由来しているそうです。



片嶋純雄会長

彼岸会法要は日本独自のもので、現在では彼岸の仏事は浄土思想に結びつきの説明がなされるようです。天皇の詔として始められ、この浄土思想でいう極楽浄土は西方の遙か彼方にあると信じられており、春分と秋分、太陽が真東から昇り、真西に沈むので、西方に沈む太陽を礼拝し、遙か彼方の極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりとされています。シルクロードを経て、生を終えた後の世界を願う考え方に基づいている。心に極楽浄土を思い描き、浄土に生まれ変わる事を願った（念仏）と理解されています。

お供え物としては、春はボタンの花にちなんで、牡丹餅。秋は萩の花にちなんで、おはぎというそうです。

どうぞ皆様もお時間が有りますれば、御先祖様へのお参りをする優しい心を抱いて頂ければと思います。

◆本日のプログラム

卓話「歴代会長の放談。第一弾」 伊藤長次郎会員

昨年高砂ロータリー60周年の記念誌が出来て参りますと、西田幹事さんに「伊藤さんの為に作った様な本だ」と言われてしまいました。私も創立3年目から永らく在籍させて頂き、60年の歴史を懐かしく思い浮かべさせて頂きました。



歴代会長という事で、思い浮かべる創立当時の様をお話しますと、戦前の高砂町には鐘淵紡績高砂工場、三菱製紙工場程度しか無かったのですが、戦時中、白砂青松しか無かった荒井濱に、広大な砲兵工場が出来、何を作っているのか知らされぬまま終戦になると、跡地に大企業の工場が誘致され、高砂市の合併構想と共に工業都市への機運が芽生え、地元有志が工場の代表を誘って、クラブ設立が図られたと思います。

初代の藤村哲之会長は、元日鉄の重役をして居られましたが、進駐軍から役職の制限を受け、子会社の播磨耐火煉瓦の社長をして居られ、大変見識の高いクリスチャンで、ロータリーの理想もよく理解しておられました。

田中益三会長は、田熊汽缶を立ち上げられた創立社長のような方で、高砂を本社に全国を飛び回って多忙にしておられましたが、当時、高砂クラブは連続出席100%で、地区大会でも表彰されて居たのに、どうしてもメイクアップの時間が取れなくなってしまわれ、『皆が頑張っていて呉れるのに申し訳なかった』と、サントリーのテーブルワインを会員に一本ずつ配られました。罰則というのではなく、「新製品を貰って美味しかったので、お裾分けです」と言って居られました。

地元からの大崎源一郎会長は几帳面な勉強家で、その後、蔵書何千冊かを大崎文庫として図書館に寄贈されましたが、ロータリーの友やガバナー月信も年度毎に製本されておりました。

ガバナーの公式訪問と言うとびくびくするクラブもあるそうですが、「高砂は歴史あるクラブで立派です」と言われるのは、こうした先輩の功績でしょう。

会長 片嶋 純雄 幹事 高木 史郎
例会日時 毎週金曜日12時30分より
高砂ロータリークラブのホームページのURL

雑誌会報委員長 後藤 純次
例会場 高砂商工会議所2階会議室
http://www.winwin.ne.jp/~takasago_rc/